



2020年 劇団新聞

新年号

発行 劇団自由人会
発刊 2020年1月

〒655-0047
兵庫県神戸市垂水区東舞子町7-17
「ゴールドウップス」舞子ビル4F
[TEL] 078-784-3701
[FAX] 078-784-3610
[E-mail] kobe@jiyuu-jinkai.jp
[URL] http://www.jiyuu-jinkai.jp

STAGE INFORMATION

facebook、twitter、blog
更新中

各種イベントや客演情報のお知らせはもちろん、役者やスタッフたちのブログなど、自由人会の情報が盛りだくさん！
劇団web siteへAccess！

2019年は「幕末青春伝」が全国巡演を開始！「夢をかなえるゾウ」と共に、劇団2大作品として全国を駆け巡りました。そしてチューもく（注目）！劇団創立から20年間愛され続けている代表作品「カーリーの青春」が2020年ネズミ年に一般公演として上演が決定しました。あの感動作にもう一度会えます！お見逃しなく！

～信じてるよ、君たちの生きる力を～ 神戸から贈るエール 第4弾

チケット販売
『さるかにものがたり』&スマイルショータイム

ボランティア公演企画 被災した子どもたちに生の舞台の感動を届けたい！

劇団自由人会 西日本災害ボランティア公演 募金総額 129,616円

被災された方々に心からお見舞い申しあげます。

ここ数年に渡り、日本だけでなく世界中で度重なる自然災害の中、復興に向けての問題は沢山あります。その中で、私たちが出来ることは“演劇”や“音楽”で少しでも非日常の世界で楽しんでいただくこと。それが明日への糧になると信じ、みなさまと一緒に笑顔溢れる空間創りを目指しています。



みなさまの温かいご支援、たくさんのご協力をいただき、愛媛県実施いたしました。また、愛媛県大洲市役所、教育委員会の方々、大洲市立小学校、三善小学校、保護者のみなさま、地域の方々たくさんのご協力、ご支援をいただき公演する運びとなりましたこと心より感謝いたします。

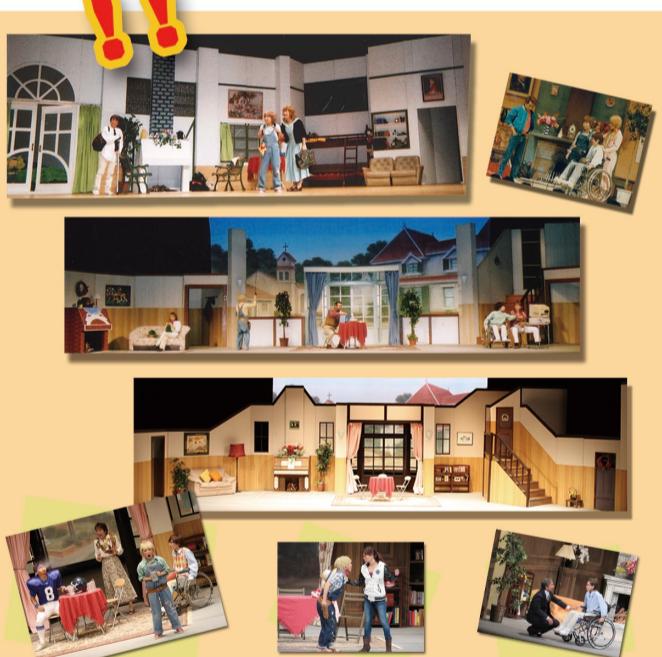
誰にも胸の内を明かせない少女カーリーが
傷を負った少年ハービーと
親に捨てられたトマス・Jに出会い、運命が動き出した――

2020年9月19日(土) 公演

兵庫県立芸術文化センター 阪急中ホール

再演決定
!!

3年ぶりに復活！
52万kmの旅を経て
112万人以上の子どもたちが
愛し続けてくれた



早いもので、あの震災から25年が経ちました。神戸地震が来るなんてことは誰も予想していなかつた為、私自身もそうでしたが周りの人たちに聞くと、関西がこんなに大変なことになっているということは、関東はもつと凄いに自分になつていて、と感じたと聞きます。震災に慣れてしまつたといふのがだいていにない関西人は潰れた家を目の前にして、どこに行けばいいのかわからず、潰れた家から布団を引つ張りだし、夜が明けぬ寒い公園で家族が身を寄せ合い余震に怯えました。この神戸未曾有の災害から、日本の防災意識は随分とかわりました。

今だからこそ伝えたい真実のドラマがここにある！

カーリーの青春

原作／B・バイヤーズ 脚本・演出／ふるかわ照



早稲田大学坪内博士記念演劇博物館

2019年11月2日から12月25日まで早稲田大学坪内博士記念演劇博物館で「コドモノミライ 現代演劇と子どもの秋企画展」が開催されました。この展示は、今年が「児童の権利に関する条約」の採択から30周年ということもあり、今を生きる子どもや青少年から、阪神・淡路大震災を経験した子どもたちが「ぱくらこ」という学級通信を通して、新しい発見をしながら成長する姿を描いた「6年3組の阪神大震災」の作品を展示していただきました。

しかし、まさかの16年後、2011年3月11日の東日本大震災。20年の間に、これほど大きな災害を二度体験する事になるとは日本中の誰が予想したでしょうか。私たちは震災を体験した劇団として、出来る限りのアート支援としてボランティア公演を続けました。こうして私たちが未曾有の大災害を受け、演劇を通して人々の心に寄り添い、少なからず力になれたことは私たちも生きる原点に立ち返り、演劇を続けることの自信に繋がる結果となりました。今年、阪神・淡路大震災から25年。神戸の現状を見る限り、あの未曾有の災害を体験した街とは思えないくらい美しく甦りました。しかし、私たちの心中には、あの1995年1月17日5時46分の朝の出来事は全く色寄せはならないことを胸に、演劇が繋がることなく生き続けています。風化させてしまうことを防ぐために、演劇が繋がることなく生き続けています。震災から、ずっと私たちの活動を支えてくれた「カーリーの青春」が2020年9月19日、兵庫県立芸術文化センターで上演することが決まりました。

「どんな辛いことがあっても、過ぎてしまえばそれでおしまいさ！」心に傷を負いながらも、明るく逞しく生きるカーリーたちの生き様は、25年たつた今でも私たちの心に力強く響くものと信じています。

「どんな辛いことがあっても、過ぎてしまえばそれでおしまいさ！」心に傷を負いながらも、明るく逞しく生きるカーリーたちの生き様は、25年たつた今でも私たちの心に力強く響くものと信じています。

劇団自由人会を結成した当初から上演し続けてきた「カーリーの青春」。今回、久し振りの上演となる。初演で主演のカーリー・ヤトマスを演じた女優さんたちは既に結婚しており、そろつて子どもを育て母となり、そして今やお婆ちゃんになった。めでたい限りであるが、それ程の長い歳月が経つたのだ。その期間私たちは、学校から学校へ、劇場から劇場へ、北は北海道・札幌から南は九州・鹿児島までを東奔西走、何度も往復した事だろう。懐かしいのは真夏の早朝に走り抜けた広島の街の静けさ、夜の山陰のぽん雪、紅葉で燃える北陸から青森への道。四季折々、我々はなんと美しい国土に生まれ付いたかと感動の演劇の旅であつた。また、阪神・淡路大震災直後の慰問公演、東日本大震災での劇場だった。そして、新たな青少年たちの新たな世代に向つて、我々のカーリーの旅は続く。

ボランティア公演 宮城県にて

幕末青春伝 bakumatsu seishinden



自宅でスマホ片手に地球の裏側のニュースがリアルタイムで見られる「情報化社会」と言われる現代、黒船来航後、流入してきた西洋の文明に翻弄され、国内が混沌とし「激動の時代」と言われた幕末、時代は違つても大きな夢と希望に溢れた若者たちはたくさんいます。我々大人はそんな大きな「夢」を持った若者たちに、自分自身で限界を決めるところなく自身の可能性を信じさせ、新たな一步を踏み出す手助けをしないといけません。自分を信じる事、仲間を信じる事、自分の目で見て考えて決めるという能動的な行動、決して夢をあきらめない事：劇中で描かれている幕末の若者たちの物語を、現代の若者たちが自分自身に置き換え、共感し、そして一步踏み出そうとしていることは観劇後の若者たちの感想を聞かせて貰う度に実感し、いつの時代も夢を持つた若者たちが夢を実現させ新しい時代を創つて行くのだと確信します。そんな「夢」という未知の可能性を秘めた若者たちへのメッセージとして、高村光太郎氏は『僕の前に道はない』、僕の後ろに道はできる」と書き、清沢哲夫氏は『危ぶむなけれ、危ぶめば道はなし』と書きました。「幕末青春伝」という作品もまた、若者たちの正面から向き合い、「君の夢はなんだ？夢を夢のまま終わらせるなよ」と語りかけ、一步踏み出そうとする若者の背中を「Go for it！」と力強く押す…そんな作品でありたいと思っています。

とても素晴らしい作品でした。幕末は一番好きな時代なので、とても楽しめました。殺陣のクオリティが高くて驚きました。最後に船が動き出したのは本当に驚きました。体育館に入ってきて「船があるー！」と驚きましたが、最初から最後まで目が離せませんでした！

兵庫県立香寺高等学校 生徒

今回の劇を観て勝先生の「一步踏み出す」という言葉がとても良いなと思いました。私は何か新しいことをする際にできないと思ってしまうことが多いので、一回でも挑戦してみることが大事だと感じました。

兵庫県立上郡高等学校 生徒

大好評

今年も体育馆へ
いざ大晦原へ

卷之六

いざ大海原へ

神戸演劇鑑賞会

「良い演劇を多くの人たちと観ていこう」と1954年7月に誕生した演劇鑑賞団体。神戸に良い演劇を広め演劇を愛する人を増やしていくことを目的としている。毎月、会費を納め、年間7本の芝居[例会]を観劇。創立40周年の1994年には神戸市の「文化活動功労賞」を受賞。

2004年、節目の創立50周年に会の名称を神戸勤労演劇協議会(神戸労演)から神戸演劇鑑賞会に改名。

第3課

神戸演劇鑑賞会の方々と 今談

今私たちが出来ること

次世代に繋ぐために

鶴嶋

全国的に会員が減少している中、岡山県などでは20年近く増え続けているんです。一人、二人でも増えているのは、どんな工夫をされているのか興味ありますね。反面、僕たちが20代の若者たちと触れ合う機会は難しいですから、子育てが一段落した4、50代世代をどう引っ張り、芝居を楽しませもらえるかを考えていく方が可能性があると思います。若者向けの演目より、人と人との繋がりを大切にしたいですね。

田中 演目が問題ではなく、どんな作品を観たいか等の会話や、コミュニケーションが大事なんだと思います。

ふるかわ

“分かりやすい作品”は若者たちに視点を置くあまり、本質的なことを見えなくする傾向があるかもしれませんね。

鶴嶋 ぶれない、ということが大事ですよね。

田中 少し難しいなと思う作品ばかり観てきましたが、僕はそういう作品の方が今でも心に残っています。

森 そうですね。若者たちの文化を拒否するのではなく、新しいものを取り入れながらも時代に流されない創造理念が必要ですね。

延吉 身の丈に合ったことをするだけではなく、小さな動きが大きなこと

に繋がると信じ活動していきたいですね。

新神戸文化ホール完成まで9年。今後の活動は?

森 ぜひ演劇鑑賞会のみなさんとタッグを組ませて頂きたいです。若い人たちだけにターゲットを絞るのではなく、シリーズ化した企画を考えることができればと思っています。

田中 良いですね。演鑑が劇団を育てたんから、いいから、倉造団体と繋がりを持つことができればと思うし、応援したくなる存在でいてほしいですね。

神戸演劇鑑賞

見会